



# 麻布幼稚園だより

令和3年11月号  
港区立麻布幼稚園  
園長 酒井 正美

10月のスポーツデーは延期をしての開催となりましたが、保護者の皆様にはご理解とご協力をいただきありがとうございました。どの学年も保護者の皆さんと一緒に体を動かす、大変楽しいスポーツデーとなりました。「家でリズムの歌や園歌を何度も歌っていて、幼稚園で楽しんでいることを感じました。」「かわいらしさだけでなく、先生の話聞き、しっかりと動いている姿に感動しました。」「負けて悔しがっている姿に成長を感じました。」等、感想をいただきました。

保護者の皆様が、お子さんの楽しんでいる姿、頑張っているところを温かく見守り、お子さんの成長に目を向けられていることを感じました。それぞれの学年に成長の姿がたくさん見られました。体を動かす楽しさは、次の「やってみよう」につながります。楽しさと共に、自分なりに「がんばった」「できた」という満足感、充実感が味わえたことは、今後の成長につながっていくことでしょう。

当日は、学年ごとの開催となりましたが、スポーツデーまでの取組では、他学年のしている様子を互いに見合ったり応援したりする姿が見られました。互いの姿を見合うことは、憧れの気持ちをもったり、かわいらしさを感じ応援する優しい思いをもったりと、子供たちの心の成長につながっています。

4, 5歳児の誕生会では、5歳児が司会をしてくれています。前に出てお辞儀をしたり、話をしたりして会の進行をし、素敵な姿を見せてくれています。先日の「芋掘り遠足」では、3歳児が留守番であることが4歳児の学級で話題になると、「お土産のお芋を掘って行ってあげよう。」という声が子供たちから聞かれました。

近隣の子供同士の関わりを自然にもつことの難しさが多い中、幼稚園で経験する異年齢の関わりは大変貴重です。教員たちは、同じ園で遊び、生活をする幼児同士、様々な場面で、互いのしていることに興味をもてるようにしていきたいと考えています。年長児には、年中、年少児に対する思いやりの心がもてるようになってほしいと願っています。栽培物や園のサクランボや柿が収穫できたら「みんなに配ってあげよう」、芋掘りに行ったら「お土産のお芋を掘って行ってあげよう」、困っている様子に気づき「手伝ってあげよう」など、自分たちが楽しむだけでなく、他学年への思いをもち「おすそ分け」「手助け」などの行動に表す機会を大切にしていきたいと思えます。年中、年少児が抱く、年長児に対する憧れの気持ちや優しくしてもらったうれしさは、心に積み、自分たちが大きくなった時の小さい友達に対する思いやりや行動につながっていきます。

思いやりをもち、相手に対する行動に表せることは、言われたからと言ってできるものではありません。「お先にどうぞ」と譲り合う姿、相手を思いやる言葉や行動を大人が見せていくことや、生活の中で、子供たちが相手に思いをもち行動する姿や機会を大切にすることで、子供たちの心の中から出てくるようになってほしいと願います。

感染症の状況が落ち着いている間は、対策に配慮しながらも積極的に異年齢が関わる機会をつくっていききたいと思えます。また、直接の交流が難しい状況となっても工夫をし、大切なことは経験できるようにしていきたいと考えています。